

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.46 2009年6月号

イソップ物語の中に、「北風と太陽」というお話があります。有名な寓話ですから、ほとんどの方がご存知でしょう。

あるとき、北風と太陽が力比べをしようとしています。勝負は、たまたま通りかかった旅人の上着を脱がせることができるかどうかという方法によることになりました。そこでまずは北風が力いっぱい息を吹いて旅人の上着を吹き飛ばそうとします。ところが、旅人は飛ばされまいとして上着をしっかりと押さえてしまい、結局、北風は上着を脱がせることができませんでした。次に太陽の番になり、太陽はさんさんと輝いてあたりを暖かくします。すると旅人は暑くなってきたせいで上着を脱いでしまい、力比べの勝負は太陽の勝ちで終わるという話です。

この話は、他人に何かをしてもらおうというときの本質をすどく突いているような気がして、昔から好きな話でした。私はこの話を、無理やり何かをさせようと思っても人はうごいてくれないけれど、寛容な心で暖かく見守って、自ら行動をおこすように仕向けることができれば人はうごいてくれるというふうに解釈しています。そういう観点で見ると、他人にしてほしいと思っていることを、実は自分がそうはさせないように仕向けてしまっていることが多いような気がしませんか？ たとえば、何かの会を企画して多くの人に参加してほしいと思ったときに、「とにかく参加してください！」と無理やりお願いするのは、北風が一生懸命息を吹くのと一緒です。でも、会そのものをおもしろいものにしようと企画して、クチコミを使うなどで多くの人に出てみたいと思わせることができれば、参加者は自然と増えそうです。また、他人に何かをしてもらえる人、他人に助けてもらえる人というのは、その人自身にも魅力がありそうです。「観光」という言葉は「光」を「観」と書きます。人は明るいものや明るい人に惹きつけられるのかもしれないね。あいだみつおさんの言葉にもこんなのがあります。

「あの人がゆくんじゃ わたしはゆかない
あの人がゆくなら わたしもゆく あの人の
あの人 わたしはどっちのあの人か？」

私も、「あの人がゆくんじゃ わたしはゆかない」
と言われていなければいいんですけど・・・。

